

## 2 現状と評価

### (1) 魅力・ポテンシャル

#### ● 四季折々の花

四季彩の杜では、薬師池のウメやツバキ、花しょうぶに加え、えびねやダリア、景観作物の菜の花やそばの花といった四季折々の美しい花々が咲き誇ります。現在も、花々の風景を楽しむ人や撮影を楽しむ人など多くの方が花々を目的に四季彩の杜を訪れています。



ツバキ

#### ● 豊かな樹木や農耕地景観

薬師池周辺地域は、傾斜地や尾根部の一部にクヌギやコナラから構成される雑木林や杉・ヒノキ植林からなる樹林景観があります。

かつて、薪炭林として利用されていた樹木林をはじめ、現在も施設間に広がる農耕作地など、古くから人の手が入った自然と人の暮らしが一体となった里山の景観をつくり出しています。



豊かな樹林

#### ● 町田の歴史の集積地

薬師池の由来と言われている野津田薬師堂が薬師池のそばに立地し、この地の歴史を伝える重要な要素となっています。エリア内には、寺社仏閣や、旧永井家住宅、旧荻野家住宅といった古民家、鎌倉古道とそれに由来した伝鎌倉井戸、石阪昌孝の墓などの自由民権運動に関連する歴史施設が分布しています。



野津田薬師堂

#### ● 遊び・学びの場

西園では、「ラボ・体験工房」で様々なワークショップや講座「やくしの学び」が連日開催されています。



ラボ・体験工房

リス園は、放し飼い広場のリスをはじめとした小動物と過ごすことのできる楽しい遊びの場でありながら、「命の大切さ」を学ぶ場でもあります。



えさやり体験

## ● 農産業と交流の場

四季彩の杜では、各所で地域の生産者の農産物などを販売しています。新鮮な農産物を心待ちにしているリピーターも多く、来訪者は時に生産者と言葉を交わしながら旬の農産物を購入することができます。

西園の直売所では、町田市名産品、酒類、手作りの器等、地域の魅力的な商品が集まる町田市のアンテナショップになっています。



やくしLOCALファーマーズマーケット

## ● 起伏にとんだ地形が生む独特の景色と

### 地形的連続性をもたらす回遊の楽しさ

丘陵の頂上部の標高は概ね100m~130m、谷部は概ね60m~70mとなっており、標高差は概ね30m~70mとなっています。丘陵の頂上部からは富士山が望めるほど眺望がよく、古くは七つの国が望めたほどでした。

この起伏にとんだ地形の中に公園等の多様な施設が連続的に広がり、移動した先の地点によって風景が変わることで、来訪者に飽きない体験を提供しています。



七国山からの展望

## コラム

### 薬師池の成り立ちについて

薬師池は、福王寺谷と呼ばれる谷戸に湧き出る水を、堤で堰き止めてつくった溜め池で、明治時代頃まで溜め池のほとりにあった福王寺（現在の薬師堂）にちなみ、「福王寺池」「福王寺溜井」と呼ばれていました。いつごろ造られたのか、はっきりしませんが、一番古い時期を示している史料では、小田原北条氏の支配下にあった天正年間（1573-92）に造成されたとあります。

溜め池の面積は約2000坪で、溜め池の水は鶴見川方面に向かってひろがる約7ヘクタールの水田の農業用水として利用されました。

風水害などの自然災害により、たびたび溜め池が埋まる被害にも見舞われました。例えば、富士山の宝永噴火の際には、雨水などによって周辺に降った火山灰が流れ込み、十分な水が確保出来なくなりました。そのため大規模な溜井浚いが計画され、村びとをはじめ領主や他村の人びとの協力を得て工事がおこなわれました。こうした自然災害に幾度となく襲われながらも、村びとの生活を支えるため、そのたびに復旧工事をして維持してきました。

突起状になっているところには、かつて弁財天の祠があり、ところどころに松などが植えられるなど、単なる溜め池ではなく、早くから景観を意識した公園の役割を持った池であったとする研究もあります。



1817年の薬師池（絵図）

## (2) 前計画の方針ごとの成果

2014年6月に策定した「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」では、基本コンセプトを『四季を通して花・風景・回遊を楽しめる魅力ある公園』と設定しています。

そして、その基本コンセプトのもと7つの方針を定めています。下記の表は、その方針ごとの実施事業の実績を記載しています。

また、次ページ以降では7つの方針ごとに、事業による成果と現状の課題について、次のとおり整理します。

### ● 2014年策定「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」

#### 基本コンセプト 四季を通して花・風景・回遊を楽しめる魅力ある公園

方針		実施事業（実績）	
1	四季折々一年を通して楽しむことができる場	ソフト	春フェア、紅葉のライトアップ、こどもの日のイベント、ブルーベリー摘み取り、足湯体験など
		ハード	ラボ・体験工房の整備、ライブラリー・ラウンジの設置など
2	里山観光の拠点としての一体性の構築	ソフト	地域イメージアップイベントの開催、エリア内スタンプラリーの開催、ウォークツアーの開催など
		ハード	ウェルカムゲートの整備、四季彩の杜ホームページの開設など
3	施設個々の魅力向上と町田を発信するソフト事業の継続展開	ソフト	しょうぶ・あじさいまつり、観蓮会、二ホンリス展示ブースの設置、ダリアの名称公募、地域回遊イベントの実施など
		ハード	カフェ・レストラン、直売所の設置、池水浄化システムの整備、歴史案内板の設置など
4	地域へのアクセス、施設間のスムーズな回遊性の実現	ソフト	公共交通利用の啓発、施設間巡回バスの運行など
		ハード	エリア内サインの設置、シェアサイクルポートの設置、連節バスの試験運行など
5	利用の核となる拠点の整備	ソフト	町田市観光コンベンション協会との協働
		ハード	ウェルカムゲート整備、西園前バス停の整備など
6	町田市民の参加・交流による相乗効果の醸成	ソフト	農体験、菜種油しぼり体験、各施設が連携したイベントの開催、観光案内人養成講座など
		ハード	農の体験施設整備など
7	里山景観・眺望、みどりを活かした地域づくり	ソフト	山野草観察会、ダリアガイドツアーなど
		ハード	自然観察路整備など



#### 各方針の事業による成果と現状の課題（次ページに続く）

※ソフト：ソフト事業（イベントやサービス等）ハード：ハード事業（施設整備等）

## 1. 四季折々一年を通して楽しむことができる場

### 事業による成果

- ・草花を中心に四季を楽しむための選択枝は増え、一年を通して楽しめる場の提供が進んでいます。2022年度の各月平均の来園者は前年度から約5,500人増加しています。
- ・西園の開園により、年間来訪者数は増加傾向にあり、2022年度は134万人となりました。
- ・子ども向けイベントによって親子連れの来訪が増えています。ライブラリー・ラウンジや、オープンキッチン付きのフリースペースであるラボ・体験工房を設置しました。



紅葉まつり

### 現状の課題

- 【課題1】四季を通じて花やみどりがさらに楽しめるよう草花を計画的に配置する必要があります。来訪者がいつ来ても見どころがあるよう、施設全体で開花時期を考慮して花を配置します。併せて、既存の木々や草花も、適切に植栽管理する必要があります。
- 【課題2】何度でも訪れたいくなるような好循環を生み出す場を提供する必要があります。2022年度に実施した施設利用者アンケート（以降、「利用者アンケート」）の結果、年2回以上来園するリピーターは全体の54%と低い結果となっています。
- 【課題3】子どもを対象とした場の整備やイベントのさらなる充実が望まれます。利用者アンケートの結果、購買施設のほか、「自然を活かしたフォレストアドベンチャー」や「子どもを中心とした遊具や遊び場」などの割合が高くなっています。

## 2. 里山観光の拠点としての一体性の構築

### 事業による成果

- ・総合案内所の設置や、ホームページ・SNSの開設により、情報発信拠点ができました。ホームページやInstagram、動画配信を通じて情報発信を行っています。
- ・四季彩の杜の各施設運営者や町田市観光コンベンション協会、町田市で構成する施設運営連絡協議会の開催により、情報共有や連携イベント実施など一体性が構築されつつあります。



インフォメーション

### 現状の課題

- 【課題1】総合案内所機能をさらに強化し、四季の見どころや来訪者ニーズを踏まえた情報などの継続した提供が必要です。来訪者が増加した西園への来訪を契機とし、他施設への来訪者を増やすため、観光拠点としてのブランド力向上に取り組んでいきます。
- 【課題2】エリア内を巡るために各施設が連携し、ホームページやSNSを用いて一体性をもった情報を継続的に発信する必要があります。利用者アンケートの結果、四季彩の杜の名称を知らない人が全体の約47%、また、1つの施設しか利用していない割合は約22%でした。施設運営連絡協議会の立ち上げにより各施設間の連携は強化しましたが、一体的なプロモーションなど運用には課題が残っています。

### 3. 施設個々の魅力向上と町田を発信する ソフト事業の継続展開

#### 事業による成果

- ・西園の「カフェ・レストラン」や「直売所」は、2021年度には12万人以上が利用しており、好評です。また、定期的に行っているファーマーズマーケットも人気が高いイベントです。
- ・施設間連携イベントや各施設で特色あるイベントを実施し、積極的な情報発信を行うことで、メディアなどで取り上げられる機会が増え新たな顧客が来訪しています。



地域回遊イベントのポスター

#### 現状の課題

- 【課題1】 好事例を分析し、他の施設への改善につなげていく必要があります。利用者アンケートでは、充実してほしい設備や機能について、「屋内外の休めるところ(カフェ、ベンチ等)」や「食事ができる場所(レストラン等)」の割合が高いです。
- 【課題2】 既存施設の魅力を向上するために、**施設の老朽化や新たなコンテンツの提供**などに対応する必要があります。薬師池やリス園など集客力の高い施設の老朽化が進んでおり、改善が必要です。また、ダリア園では利用者アンケートから「写真撮影スポット」の要望も多い傾向であり、新たなコンテンツとなる可能性があります。
- 【課題3】 地域の自然や文化、歴史などの特色を活かしたテーマ性のあるイベントによって、**幅広いニーズに合う事業**を行う必要があります。また、七国山には「鎌倉古道」、ぼたん園には自由民権運動にまつわる記念碑といった様々な地域の歴史的遺産が点在しています。これらを有効的に活用する必要があります。

### 4. 地域へのアクセス、施設間のスムーズな回遊性の実現

#### 事業による成果

- ・西園駐車場の整備により、エリアへのアクセスの選択肢が増えました。また、入庫レーンの設置により、西園駐車場へのスムーズな入庫につながっています。
- ・エリア内サインの設置により、エリア内移動のための利便性向上を図りました。
- ・シェアサイクルの設置により、エリア内を回遊するための選択肢が増えました。
- ・連節バスの乗り入れも可能なバスベイが西園前に整備され、イベント開催時に連節バスを運行させるなど、渋滞緩和と公共交通機関の利便性の向上につながっています。



連節バス

#### 現状の課題

- 【課題1】 ハイ・シーズン時の渋滞解消のため、鎌倉街道の整備とあわせて、駅からの案内の充実や公共交通機関の利用促進、**公共交通機関の利便性の向上**が必要です。また、必要に応じて臨時駐車場のスペース確保等の検討が必要です。
- 【課題2】 エリア内のさらなる**回遊性向上**のため、移動しやすさ、案内のわかりやすさが必要です。バスベイが整備され利便性が向上した一方、鶴川方面からの利用し易さや、鎌倉街道を横断する歩行者の安全確保の為の案内についても必要となっています。

## 5. 利用の核となる拠点の整備

### 事業による成果

- ・ 総合案内所機能を備えた西園の開園によって、利用の核となる拠点ができました。西園の年間来場者数は四季彩の杜全体の来場者数に対し、約50%を占めています。
- ・ 西園前のバスベイの整備により、ウェルカムゲートへの利便性が向上しました。町田駅発着の一般路線に加え、臨時便の連節バスの停車も可能になりました。



ウェルカムゲート

### 現状の課題

- 【課題1】 エリア内の情報を一括で得られる拠点として総合案内所機能を強化、継続していく必要があります。総合案内所へ各施設の開花状況や駐車場の情報などの問い合わせが多数寄せられています。また、利用者からホームページがわかりづらいとの声があります。常時、最新情報を集約し、総合案内所の体制を整えるとともに、わかりやすくインターネット上で公開する必要があります。
- 【課題2】 利用者の多い町田駅などターミナル駅での周知活動が求められます。エリア外での情報発信を、町田市観光コンベンション協会と連携して強化していく必要があります。

## 6. 町田市民の参加・交流による相乗効果の醸成

### 事業による成果

- ・ 西園で開催される様々な講座「やくしの学び」や農体験などによって、市民参加や交流が行われています。多彩なイベントがほぼ毎日開催されており、リピーターも多く人気となっています。
- ・ 町田市観光コンベンション協会が地域ガイドの補強のために、観光案内人養成講座を行っています。2022年9月、「まちだ観光案内人」が新たに17名誕生しました。薬師池の花しょうぶ・あじさいの案内ガイドや紅葉まつり、ぼたん園のガイドなどで活躍しています。



花しょうぶガイド

### 現状の課題

- 【課題1】 地域と連携したイベントを継続していく必要があります。「まちだ観光案内人」が四季ごとに草花の魅力を伝えることで、リピーターの獲得につなげていきます。また、多くの観光客が訪れる時期の需要に応えられる、観光案内人の育成を継続していきます。
- 【課題2】 市内で活動している個人や団体のエリアへの参加の働きかけが必要です。西園のラボ・体験工房は、会議や地域の集会などで利用されています。今後さらに周知を行い、地域活動参加へのきっかけの場となることを目指します。

## 7. 里山景観・眺望、みどりを活かした地域づくり

### 事業による成果

- ・ 菜の花やそばの花といった景観作物を計画的に栽培し、季節ごとに魅力的な景観を生み出しています。多くの人が散策や眺望の良い景観を求め、訪問しています。



里山景観

### 現状の課題

- 【課題1】 多様な主体の参加により持続的に**花やみどりを守る**ことが必要です。利用者アンケートでは草花にどのような楽しみ方を求めているかに対して、「草花を鑑賞したい」や「草花を撮影したい」の割合が高くなっています。花やみどりを活用した施策や地域づくりが求められています。
- 【課題2】 花やみどりとの**ふれあいの機会**や人々の交流促進が必要です。利用者アンケートでは草花に対して鑑賞や撮影のほか、「草花や地場産品の商品を使いたい、食べたい」の割合も高く、自然とのふれあいや人々の交流促進のため、ファーマーズマーケット等の地域に根付いた取組を検討することが必要です。
- 【課題3】 魅力的な景観を将来にわたって保全するために**適切な森林管理**が必要です。近年、森林病虫害の被害により、樹木の枯れが多数確認されています。森林景観の悪化にもつながるため、樹木の間伐と育成のバランスが必要です。

### (3) ブランディングの成果

西園の開園に向け2018年3月に策定した「町田薬師池公園四季彩の杜西園エリア管理運営方針」では、四季彩の杜のブランド・アイデンティティとして『「やくしの時間（とき）」の体感と暮らしの彩り』を提供していくと定めています。

また、エリア全体でのブランディングを進めるため、ブランドロゴを定め、ホームページを開設するなど、一体的なプロモーション活動を行ってきました。

その成果もあり、西園は2020年の開園以来、毎年50万人以上の方が訪れ、賑わいをみせています。また、ブランディングの展開は、西園の開園とともに本格的に実施し、「やくしの時間」を体感できる「やくしの学び」が人気など、一定の成果がみられます。

しかし、アンケート調査では「町田薬師池公園四季彩の杜」の名称に対する来訪者の認知度は低く、利用目的が個別施設のみの方もおり、施設間連携による相乗効果が効果的に発揮できていない状況にあります。



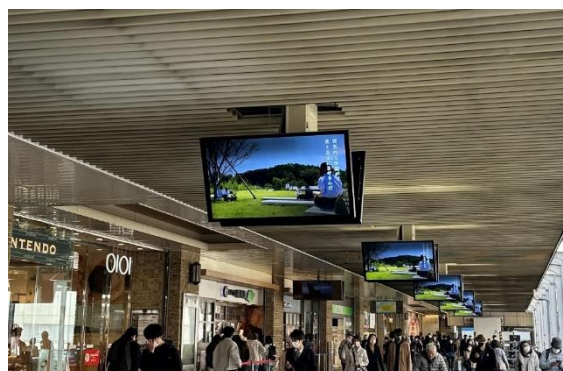
#### ブランド・アイデンティティ 「やくしの時間（とき）」の体感と 暮らしの彩り

「やくしの時間」とは、町田薬師池公園四季彩の杜に流れる時間・期間・季節・風景や独特の雰囲気・空気感を表しているものです。

この土地に流れる独特の「やくしの時間」をかえがたい魅力としてとらえ、特別な日だけではなく、普段でも立ち寄りたくなるような、暮らしの中の彩りとなる居場所を提供していきます。



四季彩の杜の動画配信



デジタルサイネージでのPR



## (4) 環境の変化による新たなニーズ

本計画では、「(2) 前計画の方針ごとの成果」とは別に、前計画策定後の社会情勢の変化を捉えた環境の変化による新たなニーズとして下記の視点も加えます。

### ● 学びや体験へのニーズの高まり

スマートフォンやタブレットなどのモバイル機器が普及し、個人の体験がSNSなどで共有されるようになり、あらゆる体験が身近に感じられるようになりました。

消費行動は従前の「モノ」「コト」から、若い世代を中心に、今ここでしか体験できない、「トキ」を楽しむことに価値を見出すようになってきています。四季彩の杜でも西園の「ラボ・体験工房」で開催される様々なワークショップや講座「やくしの学び」が人気となっています。このことは新たな四季彩の杜の楽しみ方の可能性を広げています。

### ● 様々なライフスタイルに合わせた楽しみ方

コロナ禍を経験し、生活が一変したことにより、生き方そのものを見つめ直すきっかけになった人は多く、社会や地域とのつながり、健康の大切さを再認識した人が増えています。また、テレワークも急速に普及し、場所を選ばず仕事ができるようになりました。

暮らし方に変化が現れ、四季彩の杜に求められる価値が以前より多様化しています。

このエリア最大の魅力でもある豊富な樹林景観を一日かけて散策する人、「カフェ・レストラン」でテレワークを行う人、「ラボ・体験工房」のワークショップで地域交流を行う人など、様々なライフスタイルに合った四季彩の杜の魅力を提供する必要があります。

連日開催されるやくしの学び



にぎわうカフェ・レストラン